

2.品質保証プロジェクト計画の作成

特定の浚渫土砂検査プログラムに対して、既知の品質を持った十分かつ適切なデータを得るために、形式の整った計画が常に作成されなければならない。サンプルの採集や実験室での分析にかかる労力が小さいとき、この計画は比較的単純であろう。しかし、サンプルの採集や実験室での分析にかかる労力が大きいとき、データ品質の確実性を示すには、形式の整った、かつしばしば非常に詳細な QA プロジェクト計画の構築が必要であろう。この QA プログラム計画は計画立案と運用についての文書である。

QA プロジェクト計画は、本書に従い、各浚渫土砂評価の申請者または受注者の手によって作成されなければならない QA プロジェクト計画は、総合的な計画を与え、浚渫土砂検査プログラムの各段階で行われる活動（浚渫地点の細分化、サンプル採取、生物学的影響評価手順、化学的・物理的分析、データ品質基準、データ解析、および報告等）のための詳細なガイドラインおよび手順を含んでいる。特に、QA 計画では QC 検査、業務監査およびシステム監査、管理のための QA 報告、是正措置、およびデータの正確度（精密度および偏り）や代表性、比較可能性、完全性の評価を取り扱う。QA 計画では確信のある正当な結論や判断を行うのに必要なデータ量について取り扱わなければならない。

より簡潔な計画が正当だと示されない限り、以下の情報を浚渫土砂評価についての各 QA プロジェクト計画に含めなければならない（U.S.EPA 1989a を参照）。

歴史的にみて、「正確度」と「精密度」という言葉はしばしば独立した別個の用語として定義されてきた。特に、「正確度」は単にある値が真値に対しどの程度異なっているか（すなわち偏り）を示す尺度として用いられてきた。一方、「精密度」が不足した（すなわち高いばらつきをもった）データも、平均をとれば偏りは小さくなる（すなわち真値にほぼ近い）場合がある。したがって、最近の文献（例：Kirchmer(1988)）では、「正確度」を、精密度と偏りの両方と定義している。本ガイダンス書では、正確度については終始この定義を用いることとする。

- ・タイトルおよび署名のページ、目次およびプロジェクトの説明を含む導入部分
- ・QA のための組織化および責任（QA の組織化は、適切な監査を保証するために、技術的なプロジェクト組織からある程度独立して運営されるように構築されなければならない）。
- ・QA の目標
- ・標準的な運用手順
- ・サンプリング計画および手順

- ・ サンプルの保管
- ・ キャリブレーションの手順および頻度
- ・ 分析手順
- ・ データの確認・簡略化および報告
- ・ 内部 QC 検査
- ・ 業務監査およびシステム監査
- ・ 設備
- ・ 予防措置としての維持管理
- ・ データ品質指標の算出
- ・ 是正措置
- ・ 管理のための QA 報告書
- ・ 参考文献

本書の残りの節では、これらの項目それぞれについてのより詳細な情報を与える。